

科目担当者氏名		科目担当者連絡先（メールアドレス）	
井上大介			
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
森 幸雄		創価大学 文学部 人間学科	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
フィールド調査実習	SOKa-180602-2	4人	

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：

フィールド調査実習は、学生個々の関心領域における個別調査を行った。受講者は少人数であったが、学生による能動的な行動によって実施された。相互協力が予想以上に行われ、大変効果的な実習になった。

II. 調査の企画・設計（デザイン）

1. 調査のテーマ／領域：

現代社会の諸側面、社会学、社会福祉学

2. 調査の内容／概要：

1 現代日本における女性のひきこもり 2 若者の居場所作りに関わる学生の特徴 3 観光産業におけるジェンダー・マイノリティ 4 八王子の高齢生活困窮者支援 行政・施設・当事者の三者の視点から

3. 調査の範囲／対象（量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入）：

1、長期間ひきこもりの女性 2、ひきこもりの若者の居場所づくりの活動をおこなっているの参与観察が可能であったため 3、観光産業のうち、ジェンダー・パフォーマンスに触れることができたから 4、高齢者生活支援の場に触れることができたから

4. 主な調査項目：

1 ひきこもり経験者のひきこもり前、ひきこもり中、ひきこもり後、社会復帰後の生活実態 2 プロジェクト支援者の参加動機、活動 3 パフォーマンスの観察 4 当事者へのインタビュー、観察

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集（現地調査）の方法：

1 ひきこもり経験者のひきこもり前、ひきこもり中、ひきこもり後、社会復帰後の生活実態のインタビュー調査 2 プロジェクト支援者の参加動機のインタビュー、活動の参与観察 3 観察 4 当事者へのインタビュー、観察

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：

2018年11月から12月 東京都、新宿、八王子 各地1名

7. 収集したデータの量と質への評価（量的調査の場合は有効回収票及び回収率を必ず記入）：

最終的には、学生それぞれの問題関心に沿ったものとしてまとめられたが、それぞれの調査におけるインタビューや調査内容は、短時間のものとしてよくできている。

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析／解釈の方法：

それぞれの問題関心のあり方に即した行動理解を基本として、より大きな社会関係で解釈している。

9. 調査の成果（調査から得られた主な知見など）：

それぞれの調査から、現代社会の諸問題についての理解の可能性を示した。

10. 報告書刊行の予定と概要：

学内限定の資料として報告書を作成するが、報告書は公表しない。なお、添付している資料が報告書である。